

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日：2018年 12月 25日

事業所名： ぼれぼれウインカル

事業所職員及び保護者の方の御意見を踏まえ、自己評価の結果を公表します。
 評価を踏まえて、事業所の運営における課題点及び改善すべき点を確認し、今後の運営に活かしていきます。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価 (配布数85件、回答数48件)				評価を踏まえた改善内容・改善目標	
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
環境・体制整備	1	○			定員に対し適切なスペースを確保できている。	65%	31%	2%	2%	少し狭い印象です。/初めての見学の時、狭いという印象が強かった。/どのくらいのスペースが必要かわからない。/体の大きい子どもが多いと手狭感がある。	部屋を目的別に仕切れることは継続しつつ、活動人数等を適切に考えていきます。
	2	○			配置基準より1名以上多く児童指導員を配置している。	74%	9%	0%	17%	利用時に職員が何人いるか表示されている。/職員がわからない。おたよりなどで職員の紹介をしてほしい。	より手厚い支援のため、職員の適切な配置を今後も行います。
	3	○			部屋を目的別に仕切る構造化、視覚的にわかりやすい工夫など障がいの特性に応じた環境を整備している。	98%	0%	0%	2%		障がいの特性に応じた、誰もがわかりやすい環境整備に今後も努めます。
	4	○			トイレの広さが十分でなく、介助しにくい。仕切りなどのため掃除が行き届かない箇所がある。	94%	4%	0%	2%	実際にどう過ごしているか確認したい。	トイレの前に着替えスペースを作るなど、工夫をします。清潔にも十分留意していきます。
業務改善	1	○			参画の機会が十分確保できていない。結果がわかりにくい。						毎月の職員会議において意見交換の機会をつくります。PDCAサイクル、業務改善結果を記録に残します。
	2			○	第三者による外部評価を実施できていない。						今後、実施に向け検討していきます。
	3	○			法人研修、内部研修実施および外部研修参加を年間通して行っているが、内部研修が十分できていない。						内部研修の年間計画を作成し、毎月1回内部研修を実施します。
適切な支援の提供	1	○			状態の観察およびご本人・保護者からの聞き取りを行い個別支援計画を作成している。	96%	4%	0%	0%	もっと利用回数が増えたらいいなと思う。/子ども扱いされている気がするなどの思いが本人にあり、本人のレベルにあったサービスと言えない。	面談を丁寧に行いニーズや課題を明らかにして計画を作成します。アセスメント結果をご家族、職員が共有できるようにします。
	2	○			ガイドラインを基に支援項目を設定するようにしている。具体的な支援内容・手だてを記載している。	98%	2%	0%	0%		ガイドラインに沿った支援項目の設定を行い、計画に明記するようにします。
	3	○			個々の状況に応じて個別活動・集団活動を組み合わせ、計画を作成している。						引き続き個々の状況に応じて活動を設定し、計画を作成していきます。

区分	チェック項目	事業所の現状評価			保護者の方の評価 (配布数85件、回答数48件)				評価を踏まえた改善内容・改善目標		
		はい	どちらともいえない	いいえ	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見	
関係機関との連携 (続き)	3 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	4 児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	○			園や学校への移行のためのケース会議に参加したり状況や支援について書面でお伝えするなど情報共有を図っている。	/	/	/	/	今後積極的に情報共有に努めていきます。	
	5 他の障害福祉サービス事業所等への円滑な移行支援のため、それまでの支援内容等についての十分な情報提供	○			生活介護事業所、就労継続・就労移行支援事業所への移行時には、見学に来ていただいたり移行先へ訪問したりし情報共有を行っている。	/	/	/	/	今後積極的に情報共有に努めていきます。	
	6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	○			普段から連携し助言いただくほか、児童発達支援センターとは月1回の連絡会を設けている。研修も積極的に受講させていただいている。	/	/	/	/	今後さらに連携を強化し、研修で専門的な知識を身につけられるよう努めます。	
	7 児童発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障がいのない子どもと活動する機会の提供		○		児童発達支援の場合、地域の子育て支援事業の行事に参加させていただいたり公園で地域のお子さんとかかわったりする機会はある。交流の機会を積極的に提供することはできていない。	26%	11%	22%	41%	交流の機会がわかりにくい。	保護者のニーズ調査を行い、交流の機会を設けていくことを検討します。
	8 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	○			年1回、「ぼれぼれウインカルあきまつり」という行事を開催し、地域の方々にも参加していただいている。	/	/	/	/	より一層地域の方々とのつながりを大切に、機会を見つけて交流ができるようにしていきます。	
保護者への説明責任・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	○			契約時には重要事項説明書にて説明させていただいている。利用時には担当職員よりその日の支援を申し送りしているが、時間が取りにくいときがある。	88%	10%	2%	0%	利用時にどう過ごしているのか、説明が簡単すぎる。/日によって今日はどんな活動をしたのかよくわからない時もある。/中学生になった時の利用のあり方の情報を広く伝えてほしい。	当日の活動内容を連絡ボードで確認していただけるようにし、それに加えてお子様の様子がどうだったかお伝えできるようにします。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	○			計画作成時は計画書を見ていただきながら説明を行っている。	100%	0%	0%	0%		支援内容をご家庭と共有できるよう、一層努めていきます。
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施		○		個々のケースに対応している他、年1回参観日と保護者向けの勉強会を開催している。機会が十分でなく、ペアレント・トレーニングのようにプログラム化された支援はできていない。	51%	26%	6%	17%	相談してアドバイスをもらっても、上手く子どもと接しきれていない。	支援者がペアレント・トレーニングを初めとする家族支援に関する研修に参加しスキルアップを目指すとともに、定期的に保護者支援プログラムを行っていきます。

区分	チェック項目	事業所の現状評価			保護者の方の評価 (配布数85件、回答数48件)				評価を踏まえた 改善内容・改善目標			
		はい	どちらとも いえない	いいえ	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない				
保護者への説明責任・連携支援 (続き)	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底		○		日頃から発達の状況や課題を共有できるようにしている。ひとりひとりに対し丁寧にできているとは言えないかもしれない。	79%	17%	0%	4%	お話しする機会があまりないので、十分ではないかもしれない。/先生が他の子どもさんへの対応等で忙しいので聞きにくい時がある。	ご利用時には支援者からお声かけし、状態や課題を共有できるよう工夫します。
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施		○		相談を受けた際は適切に対応していくよう心掛けているが、積極的なはたらきかけができていない。	79%	13%	2%	6%	送迎サービスを利用しており、具体的なことを聞けていない。/定期的にはないが、計画作成時や相談時には助言してくれる。	上記項目と同様、相談のきっかけがつかめるようにはたらきかけをしています。
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援		○		父母の会はないが、参観日や行事等で保護者同士の交流ができる機会を設けているものの、限定的である。	30%	22%	13%	35%	他の保護者と接する機会が少ない。/同じ障害をもった子どもを育てている保護者の方と話をしてみたいが、大人数だと参加しにくい。	あきまつりで保護者にも運営に携わっていただく、保護者向けの勉強会を開くなど、保護者同士の交流ができる機会を増やしていきます。
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応		○		苦情に対する対応については重要事項説明書で説明を行っている。今まで苦情対応はないが、そのことを周知できていない。	43%	2%	0%	54%	苦情内容によって他の保護者に連絡する内容が不明で対応方法もわからない。	意見箱をわかりやすく設置し、ご意見いただけるように改善します。また、意見・苦情の有無とその対応を毎月のおたよりで周知していきます。
	8	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮		○		視覚的な方法を使い、誤解のないように配慮は行っているが、さらに工夫が必要と感じる。	85%	13%	0%	2%		お子さんへの視覚的な情報伝達を引き続き丁寧に行うとともに、保護者にお伝えする場合もわかりやすく工夫していきます。
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信		○		事業所では毎月、おたよりを送付しているが、活動や行事予定等の情報発信が不十分である。	38%	24%	7%	31%	ホームページでの発信内容がわかりにくい。/会報、ホームページを読んでいない。	毎月送付しているおたよりの内容充実を図り、事業所としての予定や月の活動計画についてお伝えできるようにします。
10	個人情報の取扱いに対する十分な対応		○		個人の情報・記録等は適正に管理し、外部との情報共有についても事前に同意をいただいている。	89%	7%	0%	4%		今後引き続き適正な情報管理に努めます。	
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底		○		マニュアルは策定されているが、周知や活用、見直しが不十分である。	28%	28%	9%	34%	マニュアルに関しての説明が定期的に行われていない。	マニュアルの見直し、整備を行います。ファイリングし、誰もが確認できるようにした上で周知を行います。
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施		○		年2回以上の避難訓練を実施している他、防災に関する研修を行っています。	28%	15%	2%	54%	訓練をしているのかもしれませんが予定になっていないためわかりづらい。/災害時のマニュアルの紙がない。	訓練の予定や結果に関する周知が不十分だったため、おたよりや連絡ボードでのお伝えをしていきます。

区分	チェック項目	事業所の現状評価			保護者の方の評価 (配布数85件、回答数48件)				評価を踏まえた 改善内容・改善目標	
		はい	どちらとも いえ	いいえ	はい	どちらとも いえ	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
非常時等の 対応 (続き)	3 虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	○			外部講師を招いて法人全体での研修を年1回開催。県の虐待防止研修にも職員を派遣し報告会や内部研修を行っている。					内部研修をより充実させていくようにします。職員個々の行動を振り返るチェックシートを定期的に配布し面談を行うなど一層の意識向上に努めます。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載		○		「身体拘束に関する説明書」および「経過観察記録表」を作成しているケースが1件あるが、決定に関し職員全体の関与・周知が十分でなかった。					ケースの共有、組織的な決定がより明確になるよう慎重に対応していきます。
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応		○		おやつ提供のため、保護者から検査結果票などの情報をいただき食べられるおやつを保護者の確認のもと定めて提供している。					食物アレルギーのあるお子様への対応について、マニュアルを作り適切に対応していきます。
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	○			ヒヤリハット報告書は全職員で確認し今後の改善を話し合っている。					定期的に事例集を基に支援や環境を見直して共有を図ります。